

Ⅲ. 子ども育成学部

【卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）】

子ども育成学部では、「次代を担う心身ともに健やかな子どもの育成を通して、地域社会の発展に貢献できる教育・保育・福祉の人材を養成すること」を、理念・目標に掲げる。このような理念・目標を踏まえて、所定の単位を修得し、以下の資質・能力を身につけたと認められる学生に、卒業を認定する。

1. 人間性の向上（DP1）

現代社会を生きる主体的な生活者として、また子ども育成を担う専門的職業人として必要な幅広い知識と教養を身につける。

2. 専門性の向上（DP2）

2-1. 教育・保育・福祉の専門職としての資質・能力（DP2-1）

子どもの生活・発達の連続性と家庭・地域・社会環境との関係性について理解し、子ども育成の理念と専門的知識・技術、実践力を身につける。

2-2. 地域に生きる専門職としての資質・能力（DP2-2）

地域の特色ある教育・保育・福祉の実践に学び、地域に愛着と誇りをもち、地域に根づいた教育・保育・福祉の実践力を身につける。

3. 社会性の向上（DP3）

国や地域を越えた広い視野、人間信頼と共同連帯の精神をもち、生涯にわたって自己を高める努力を続けようとする意欲と態度を身につける。

1 学部の教育理念と目標

1-1. 学部の設置目的

子ども育成学部は、心身ともに健やかな子どもの育成を通して地域社会の発展に貢献できる人を養成し、教育・保育・福祉など子ども育成に関する基礎的・専門的・実践的教育研究を行うことを目的として設置されています。

1-2. 教育理念と目標

21 世紀のわが国は人口減少時代を迎え、次代を担う子どもの育成と、教育・福祉・社会システムの再構築が求められています。教育は、個人の尊厳を重んじ、国家・社会の形成者として必要な資質を備えた心身ともに健康な国民の育成を期して行われるものであり、福祉は、個人の尊厳を尊重し、その健やかな育成と自立・社会参加・共生の地域福祉社会の形成を期して行われるものです。

子ども育成学部では、子どもを連続した発達主体としてとらえる時間軸と、子どもを家庭や地域社会との関係性の中でとらえる空間軸という二つの視点に立ち、「子ども育成学」の構築を視野に、現代社会を主体的に生きるための幅広い知識と教養、子ども育成の専門家としての確かな資質能力と学びの精神をもって、地域社会の発展に貢献できる人材の育成を教育目標としています。

1-3. 学部のカリキュラム・ポリシー

学部の教育目標を達成するために、次のカリキュラム・ポリシーにより教育課程を編成しています。また、学修成果を上げるための教育方法と、学修成果の評価方法を、以下に掲げます。

1. 教育課程

子ども育成学部の教育課程編成・実施の方針は、在学中に子ども育成に関する基礎的・専門的な能力の向上を図るため、教育課程を教養教育と専門教育により構成し、各教育課程には、教育目標を達成するための科目を設定している。さらに、教養教育と専門教育がより人格の形成や資質向上に資するように、特に関連性が高く、総合的な理解が求められる科目の内、本学に学ぶどの学生も習得すべき内容や技能が含まれる科目を基盤科目として設定している。各授業科目が卒業認定・学位授与の方針に定められたどの能力・素養の向上に寄与するかをシラバスで明示する。

(1) 教養科目

- ①人間・社会・自然について理解を深め、現代社会を生き抜くための資質・能力を身につけるため、「人間理解」「社会理解」「自然理解」の科目を置く。
- ②国際化・ICT活用など情報化の急速な進展に対応し、現代の課題と未来を考えるための資質・能力を身につけるため、「国際化対応」「情報化対応」の科目を置く。
- ③子ども育成の専門職として必要な目的意識を明確にし、その実現に向けて学びを深めるため、「キャリア教育」の科目を置く。
- ④主体的な探究活動を通して、生涯学び続け、自己研鑽に努める資質・能力の基礎を養うため、「演習」の科目を置く。

(2) 基盤科目【教養科目（基盤）・専門科目（基盤）】

国際化・情報化に関する教養科目（基盤）と、教育・保育・福祉の総合的理解を図るための子ども育成の理論・内容・方法・技術に関する専門科目（基盤）を設置し、それらに関連的・横断的に学ぶことによって専門的な内容を更に理解・修得できるようにする。

(3) 専門科目

- ①子どもの生活・発達・教育に関する理論を学び専門知識を身につけるため、「子ども育成の理論」の科目を置く。
- ②子ども育成の内容・方法・技術を学び、実践への基礎的な資質・能力を身につけるため、「子ども育成の内容・方法・技術」の科目を置く。
- ③現場での体験を通して、実践的な資質・能力を身につけるため、「子ども育成の実習」の科目を置く。
- ④子どもの心身の発達や社会環境に関する理解を深めるため、「子どもの発達と環境」の科目を置く。

- ⑤子どもに対する理解を深め、相談・援助に関する知識・技能を身につけるため、「子ども育成の相談・援助」の科目を置く。
- ⑥子どもと家庭、地域社会の福祉に関する理解を深め子どもの自立を支援するため、「子どもと家庭・地域の自立支援」の科目を置く。
- ⑦富山の特色ある教育・保育・福祉の取り組みへの参加や体験を通して、地域の実践を学び、地域連携の重要性を理解するため、「富山の子ども育成」の科目を置く。
- ⑧子ども育成の学びの集大成として、論文の作成・発表を通して、生涯学び続ける研究態度と自己研鑽の姿勢を身につけるため、「子ども育成の研究」の科目を置く。

(4) 副専攻プログラム

- ・国際社会で活躍できる、外国語コミュニケーション能力と実践能力のある人材を育成するために、副専攻プログラム（グローバル人材育成プログラム）を置く。
- ・地域社会で活躍できるリーダーとなり得る、課題解決力と実践能力のある人材を育成するために、副専攻プログラム（地域創生人材育成プログラム）を置く。

2. 教育方法（授業方法）

子ども育成学部では、各授業科目において、確実な理解と学習成果を上げるため一般的な知識教授型の授業方法以外に、以下に示す5つの方法を積極的に実践します。

(1) 対話型授業

教員が学生に一方的に講義するのではなく、学生も参加し、学生と教員が双方向的に対話や問答をしながら、理解を深める。

(2) 演習・反復型授業

演習課題、具体的な事例についての考察、重要な事項について反復学習をすることにより、確実な理解を図る。

(3) グループ学習

学生同士が複数のグループに分かれ、設定した課題について、グループの構成員が共同で解決に当たる。

(4) 地域フィールドワーク

地域の教育・保育・福祉施設等の現場や実習場所に出向き、実践活動を行いながら、理解を深める。

(5) 授業外学習指導や自主学习

授業外で教員が個別に学習指導したり、学習課題や調査課題などを与え、学生の自主的な学習を促す。

2 学部の教育課程

2-1. 教育課程の編成方針および特色

子ども育成学部では、**教育・保育・福祉の3分野**を幅広く学ぶことができるための教育課程を編成しています。また、各分野の根幹をなす基礎科目、各分野を統合的な視点で学ぶ「**子ども育成関係科目**」を教育課程の中核に据えています。

子ども育成学部の教育課程の特色は、三つの点に集約されます。

(1) 子どもの育ちとその環境を一体的に捉える。（教育と福祉の協働・融合）

子どもの育ち（人間形成）とその環境（人間形成の環境）を一体的に捉えていくことを、教育課程編成の基本に据えています。

乳幼児から学童期にかけての子どもを連続した発達主体としてとらえて、年齢的区分を超えて一貫した教育指導を行う「保・幼・小の接続」と、子どもが育つ環境としての家庭・地域・社会との関係の中で子どもを理解し、「よりよい育ちの環境」を整えていく課題に対応できる幅広い視野を養います。

(2) 少人数できめの細かい実践的専門教育を推進する。

小学校教育・保育・幼児教育・社会福祉などの各専門分野の養成課程を適切に組み合わせた上で、現場実践に直接かかわる科目を多く配置しています。

実践力の養成・向上のための演習や模擬授業、事例研究など少人数できめの細かい実践的専門教育を推進します。また、教育・保育・福祉の専門職養成に必須の学外実習を重視し、事前指導、事後指導や実習校・施設の現場指導者との十分な連携の下に指導を行います。

(3) 「地域で学ぶ」「地域に学ぶ」「地域で育つ」ことを重視する。

地域の特色ある教育・保育・福祉の実践に学ぶため、地域社会参加活動やインターンシップ（就業体験）、自主研修など学生が自らの体験を通して、「地域で学ぶ」、「地域に学ぶ」、「地域で育つ」ことを重視しています。時代と地域の最前線の実践的課題や展望について学びながら、それらを教育・保育・福祉の理論・実践を往還させて理解を深めなおすよう配慮し、「座学」や「教養」だけではなく、「生きた理論」、「現実とともに歩む学問」をめざしています。

2-2. 教育課程の編成

子ども育成学部の教育課程は、学部教育理念・目標を達成するために必要な学修ができるよう、体系的・系統的に編成されています。

授業科目は、「**教養科目**」と「**専門科目**」に大別されています。授業科目には、「必修科目」、「選択科目」、「自由科目」（卒業要件単位には算入しない。）があり、所定の「開講年次」と「開講時期」（前期・後期・通年）に開講されます（13 ページ参照）。「卒業必修科目の全科目（単位）」と「卒業に必要とされる選択科目（単位）」を取得すれば、卒業要件が満たされて、「**学士（教育学）**」の学位が授与されます。

また、教育課程には、小学校教諭（一種）養成課程、幼稚園教諭（一種）養成課程、保育士養成課程の履修に必要な科目、社会福祉士国家試験受験資格指定科目、スクールソーシャルワーク教育課程科目、社会福祉主事任用資格科目も組み込まれています。それぞれの「免許・資格に必要な科目」を履修すれば、卒業時に所定の申請手続きをすることで免許・資格を取得することができます。

ただし、社会福祉士国家資格は、卒業年度の末に実施される国家試験に合格することが必要です。

「教育課程の体系」令和6(2024)年度以降の入学生

— 45 —

3 履修と単位制度

3-1. 単位制度と卒業

●進級要件

- ・2年次末までに必修科目（43単位）について未修得単位がある場合は、原則として3年次への進級が認められません（授業科目の履修に関する規程第21条参照）。ただし、上記必修科目のうち5分の4以上を修得した場合は、3年次への進級を認める場合があります。この場合、3年次の一年間で、2年次末までの必修科目の未修得単位を修得できなければ、原則として4年次への進級を認めません。

●卒業要件

- ・教養科目から35単位以上、専門科目から89単位以上、計124単位以上を修得することが卒業要件となります。教養科目および専門科目のうち自由科目の単位は卒業要件単位124単位には算入されません。
- ・教養科目（基盤）と専門科目（基盤）は、全て卒業必修科目です。

教養科目	専門科目	計
35 単位以上	89 単位以上	124 単位以上

3-2. 履修に関する注意と心得

●履修計画に関する留意事項

卒業に必要な最低単位数は 124 単位です。将来の進路に必要な資格免許に関する必要な単位等を考えながら、自らの自発性に基づいて履修計画を立てることが望まれます。

(1) 教養科目

- ・「教養演習」は、専任教員で構成するゼミ担当教員が担当します。あらかじめ割り当てられた教員の演習を履修します。
- ・必修の演習および実技科目は、時間割表で割り当てられた授業を受講します。

(2) 専門科目

- ・「実習」科目は、履修のための成績等の条件があります。ゼミ担当教員や実習指導の担当教員とよく相談して、条件を満たすことができるように努力してください。
- ・「卒業研究」は3、4年次と連続して行われます。卒業論文の作成を目標にゼミ担当教員が直接指導しますが、卒業論文のテーマ設定・作成等についてはゼミ担当教員によく相談しながら進めなければなりません。授業で学んだ知識や知見を集大成する能力が要求されますので、日頃の学習の積み上げが大切です。

●ゼミ及びゼミ担当教員について

子ども育成学部では、下の表1の通り、各学年に必修科目として「教養演習」もしくは「卒業研究」（以下、これらを総称して「ゼミ」と呼びます。）が置かれています。

表1 各学年のゼミ

学 年	前 期	後 期
1 年	教養演習 I a	教養演習 I b
2 年	教養演習 II a	教養演習 II b
3 年	卒業研究 I a	卒業研究 I b
4 年	卒業研究 II（通年）	

- (1) 「教養演習 I a・I b」「教養演習 II a・II b」はいくつかのクラスに分かれて開講されます。所属クラスやゼミ担当教員はあらかじめ指定されますので、指定されたクラスのゼミを履修してください。
- (2) 「卒業研究 I a・I b」「卒業研究 II」は専任教員が担当します。原則的として、2年間同じ担当教員のゼミに所属することになります。

- (3) 「卒業研究Ⅰa・Ⅰb」「卒業研究Ⅱ」を担当する教員は、卒業論文のテーマや将来の進路等を考慮したうえで、学生が提出した希望届をもとに決定します。
- (4) 年に1度はゼミ担当教員との面談を行い、学修成果や課題等について確認してください。また、履修に必要な科目についても自主的に点検してください。

●ゼミ担当教員の役割について

大学における学生の主体的な学習・研究を支えます。

- (1) 「教養演習Ⅰa・Ⅰb」「教養演習Ⅱa・Ⅱb」における「学ぶための基本姿勢」の指導
 - ① 「教養演習Ⅰa・Ⅰb」「教養演習Ⅱa・Ⅱb」のゼミ担当教員は、1・2年次に大学で学ぶための基本姿勢を指導する役割を担います。
 - ② 教養演習では、大学で学ぶための基本姿勢を養うために、以下のような指導を行います。
 - ・読む・書く・話す・聞くといった基礎的コミュニケーション能力、思考力、行動力を伸ばします。
 - ・講義の受け方、ノートのとり方、レポート・発表レジュメの作り方、情報収集の方法、図書館の利用方法、文献の引用方法、プレゼンテーションの方法等を指導します。
- (2) 「卒業研究Ⅰa・Ⅰb」「卒業研究Ⅱ」における「研究するための基本的な方法」の指導
 - ① 「卒業研究Ⅰa・Ⅰb」「卒業研究Ⅱ」のゼミ担当教員は、3・4年次に研究するための基本的な方法を指導する役割を担います。
 - ② 卒業研究では、研究するための基本的な方法を身につけるために、以下のような指導を行います。
 - ・研究のために必要な批判的思考・創造的思考をゼミ活動のなかで涵養します。
 - ・研究のための問いの設定方法、調査方法、分析方法などの論文の書き方について、また、研究倫理について指導します。
- (3) ゼミでの学習や授業の履修に関することだけでなく、資格免許取得や将来の進路、日常生活等に関する相談や助言も行います。学生が自ら責任をもって行動できるよう、また、不明な点がある場合は自ら相談できるよう、適切な相談窓口も紹介します。

●長期展望に基づく履修プラン

- ・ 子ども育成学部の特色は、子ども育成の専門家としてふさわしい力を身につけるため、教育・保育・福祉を総合的に学ぶことができます。
- ・ 入学時および学期毎に行われるオリエンテーションには、必ず出席してください。履修プランを立てるときは、ゼミ担当教員および事務室職員などと十分に話し合ってください。
- ・ ゼミ担当教員は履修プランだけでなく、学生が有意義な大学生活を送れるように様々な問題について適宜指導やアドバイスを行います。

●現代社会学部、富山短期大学、他大学の科目の履修について

- ・ 「富山国際大学現代社会学部」、「富山短期大学」、「大学コンソーシアム富山」加盟大学、「(一社)学修評価・教育開発協議会」加盟大学で開講している科目の中から興味のある科目を履修し、単位を修得できます。
- ・ ただし、子ども育成学部が読み替えを承認した場合以外は、自由科目の単位となり、卒業単位には算入できないので注意してください。
- ・ 詳細は、学務課（教務）で確認してください。

●履修科目の登録について

1セメスター（学期）あたりの履修登録の上限は原則として22単位（年間では44単位）です。必修科目は必ず履修登録してください。ただし、資格免許取得に関する科目に関しては、22単位の上限を超えて履修することが可能です。

3-3. 成績評価および成績発表

- (1) 単位の修得は、学期末の試験の結果によりますが、授業科目によっては、授業期間中に行う筆記試験、レポートの提出、普段の学習状況等により総合的に判定します。
- (2) 欠席時間数が3分の1を超えた場合は、期末試験の受験資格を失い、単位を修得することはできませんので、注意してください。
- (3) G P Aや資格免許に関わる科目の成績が一定の水準に達しない場合は、学外実習の履修が延期、または許可されない場合がありますので注意してください。

Ⅲ. 子ども育成学部

3-4. キャリア支援と実習等の履修の進め方

将来の自分の姿、自己の適性やキャリアを見定めながら、子ども育成学部の学びを通して地域社会の発展に貢献できる教育・保育・福祉の人材となれるように学んでいきましょう。

2年次以降は、分野の専門性を高めて実社会で自己実現できる基礎を養いましょう。

※実習は開講年度以降受講することができます。

学年	期	キーワードと活動と授業	教育分野(小学校)	保育・幼児教育分野	社会福祉分野
1年	前期	キーワード『調べる』 キャリア希望調査① 地域社会参加活動(通年) 多様なボランティア活動 ➡現場で体験を通して学び、自分に合った分野を調べる 教養演習 仲間や先輩に聞く キャリア入門講座(後期) キャリア希望調査②	<県教委> 観察実験アシスタント 英語パートナー <市教委> 体育サポート <協力校> 小学校でのボランティア活動に参加 <サークル活動>	保育所・幼稚園・認定こども園、各種施設でのボランティア活動 民間事業所の見学推奨 保育所実習Ⅰ履修希望届提出	社会福祉施設でのボランティア活動 各福祉施設での行事等に参加
	後期				
2年	前期	キーワード『決める』 キャリア支援講座Ⅰ(通年) キャリア希望調査③	自主研修 介護等体験(小・小社) 6~2月7日間 社会福祉施設5日間 特別支援学校2日間 ※編入生は4年次	保育士 保育所実習Ⅰ 9月10日間 保育サポーター	
	後期	進むべき分野を決定する キャリア希望調査④ 卒業研究ゼミ配属		幼稚園教育実習履修希望届提出 保育士 施設実習Ⅰ 11月10日間	ソーシャルワーク実習Ⅰ 履修希望届提出 社会福祉士 ソーシャルワーク実習Ⅰ 2~3月60時間
3年	前期	キーワード『広く学ぶ』 卒業研究スタート キャリア支援講座Ⅱ(通年) 富山に学ぶインターンシップ(通年) 採用試験・就職試験等スタート	小学校教諭一種 教育実習 9月15日間 介護等体験(幼保小)	幼稚園教諭一種 幼稚園教育実習 8~9月15日間	ソーシャルワーク実習Ⅱ 履修希望届提出
	後期	就職活動開始 12月 卒業研究中間発表会		保育所実習Ⅱまたは施設実習Ⅱの履修希望届提出 自主研修推奨	社会福祉士 ソーシャルワーク実習Ⅱ 2~3月180時間
4年	前期	キーワード『深く学ぶ』 キャリア支援講座Ⅲ(通年)	介護等体験(編入生)	保育士 保育所実習Ⅱまたは施設実習Ⅱ 6月10日間 幼稚園教諭一種 ※小学校教育実習済みの希望者のみ 幼稚園教育実習 8~9月15日間	スクールソーシャルワーク実習履修希望届提出 スクールソーシャルワーカー ※小・社とも取得者のみ スクールソーシャルワーク実習 5~1月80時間 (生活保護受給世帯学習支援実習、学校教育現場実習、見学実習)
	後期	12月 卒業論文提出 1月 卒業研究要旨集原稿提出 2月 卒業研究発表会 3月 学位記授与式			

4 3年次編入学

●修得単位認定のための必要書類

編入学生は、富山国際大学学則(第 25 条・第 25 条の 2・第 26 条)の規定に基づき、本学子ども育成学部の該当年度の教育課程表に準拠して、従前の学校の単位を単位数として入学時に認定する、修得単位の認定を受けることができます。申請時には単位を修得した学校の「成績証明書」(6 か月以内発行)とシラバス、教職の免許状を取得した場合は免許状の写し、「学力に関する証明書」も提出してください。

●「修得単位認定申請書」の記入について

- (1) 修得単位認定申請において他大学履修単位認定を希望するのか、大学以外の教育施設等履修単位認定を希望するのか、いずれかに○を付すこと。
- (2) 【申請者】および【単位認定表】欄において、氏名欄以外は、本学代理者が記入することができること。
- (3) 富山国際大学学則第 26 条に該当する他大学等からの編入学生については、(※)に対象年度を記入し、該当項目に必要事項を記入すること。なお、卒業・中退のどちらかに○を付すこと。
- (4) 申請書本文に記載されている()内条項のいずれかに必ず○を付すこと。
- (5) 申請書内の【単位認定表】に詳細な記載ができない場合は、別紙を付すことができること。
- (6) 認定する授業科目等の評価「P」は単位認定科目を表していること(富山国際大学学則第 27 条参照)。
- (7) 記入に当たっては、教務担当教員および編入時の個別履修指導担当教員による指導を受けること。なお、取得希望資格・免許には必ず○を付すこと。また、取得希望資格・免許に変更があった場合は、上記の教員、ゼミ担当教員および事務室に申し出ること。

●履修上の留意点

- (1) 本学の卒業必修科目は必ず履修すること。ただし、1・2年次の卒業必修科目および個別認定された科目は修得したものとみなす。その場合であっても、学士(教育学)を認定する学部の性質上、「子ども育成入門」、「子ども育成論」、「教育原理」、「教育心理学」は必ず修得すること。
- (2) 包括認定単位数は 60 単位(教養科目 35 単位、専門科目 25 単位)を上限とする。なお、資格・免許に関係する科目に関しては、それに加えて法令上の必修科目を個別に読み替えて単位認定するが、個別に認定されない法令上の必修科目は本学で必ず修得すること。
- (3) 幼稚園または小学校教員免許取得希望の場合、教育職員免許法施行規則第 66 条の 6 に定める科目(「日本国憲法」、「体育講義」、「体育実技」、「英語Ⅰ」または「英語Ⅱ」、「情報処理演習」または「プレゼンテーション」)を必ず修得すること。
- (4) 保育士資格取得希望の場合は、本学保育士養成課程履修細則第 7 条 1 項および 2 項を参照すること。
- (5) 本学の自由科目は、認定する授業科目等の卒業要件単位には含まない(卒業要件単位 124 単位)。
- (6) 科目履修の状況によっては、卒業時に希望する資格免許を修得できない場合があるので注意すること。

●履修登録・履修上の注意点

「修得単位認定申請書」の確認後、希望する資格免許の必修科目等に応じて履修登録を行ってください。なお、履修登録はweb登録ではなく、所定の用紙に手書きで事務に提出してください。時間割によっては必修科目が重なっている場合がありますので、編入時の個別履修指導担当教員およびゼミ担当教員、事務職員による指導を受けて、2年間を見通した計画を立ててください（新カリキュラムへの移行時期は特に留意すること）。授業の日程が変更になり、授業が重なる場合も考えられますので、自分の時間割表を履修科目の担当教員に事前に手渡しておくなどの工夫をしてください。

Ⅲ. 子ども育成学部

5 子ども育成学部教育課程表

(2024年度入学生に適用)

区分		授 業 科 目	配 当 年次	単位数		開講 時期	教 員 (非常勤)	免許・資格に必要な科目						地域志 向科目	備 考 (卒業に必要な単位数 は124単位以上)	
				卒業要件 単位				自由 単位	小免	幼免	保育士	社会 福祉士	社会福 祉主事			スクール ソーシャル ワーカー
				必修	選択											
授 業 科 目 の 概 要	教 養 科 目	人間理解	文学	1	2		後	(稲葉茂)			○				12単位以上	
			心理学	1	2		前	大平泰子			○	◎	○			
			倫理学	1	2		前	大藪敏宏			○					
			宗教学	2	2		後				○					
			体育講義	1	1		後	金子泰子	◎	◎	◎					
		体育実技	1	1		前	金子泰子	◎	◎	◎						
		社会理解	日本国憲法	1	2		前	彼谷環	◎	◎	○					
			法学	2	2		後	彼谷環			○		○			
			社会学	2	2		後	大藪敏宏			○	◎	○			
			経済学	1	2		前	(小柳津英知)			○		○			
			ジェンダー論	2	2		後	彼谷環	○		○					
			生涯学習概論	1	2		後	大藪・辻	○		○					
		とやま地域学	1・2	2		前	(助重雄久他)							◆		
		理 自 解 然	地球環境論	2	2		前	辻・松山			○					
			自然科学	2	2		前	萩中・松山			○					
	国際化・ 情報化 対応	TOEIC I	1・2	2		前	(小林佳奈子)							2単位以上		
		TOEIC II	1・2	2		後	(小林佳奈子)									
		世界の言語と文化	2	2		後	吉崎理香	○	○	○						
		日本の動き・世界の動き	1	2		前	大藪・(奥田)			○						
		異文化研修	1・2	2		前・後	吉崎理香									
		インターナショナルプログラムⅠ (長期)	1・2		12		吉崎理香									
		インターナショナルプログラムⅡ (短期)	1・2		4		吉崎理香									
		プレゼンテーション	2	2		後	(成瀬喜則)	○	○	○						
	キャリア 教育	キャリア入門講座	1	1		後	大平・三原 義基・金							◆	13単位以上	
		キャリア支援講座Ⅰ	2	2		通年	岩崎・湯澤 竹田・義基							◆		
		キャリア支援講座Ⅱ	3	2		通年	三原・吉崎 本江・村上							◆		
		キャリア支援講座Ⅲ	4	2		通年	萩中・石倉・相山							◆		
		演 習	教養演習Ⅰa	1	2		前	専任全員			○				◆	
			教養演習Ⅰb	1	2		後	専任全員			○				◆	
			教養演習Ⅱa	2	2		前	専任全員			○				◆	
			教養演習Ⅱb	2	2		後	専任全員			○				◆	
			生活文化演習	1	2		後	彼谷			○				◆	
			地域社会参加活動	1	2		通年	大藪・大平・辻 萩中・金	○	○	○				◆	
		教養科目 (基盤)	英語Ⅰ	1	2		前	吉崎・(須加・ S.Scanlan・ T.Cooper)	◎	◎	◎					8単位
			英語Ⅱ	1	2		後	吉崎・(須加・ S.Scanlan・ T.Cooper)	◎	◎	○					
	情報リテラシー		1	2		後	(新森昭宏)			○						
	情報処理演習		1	2		前	(岡根江見)	◎	◎	○						
専 門 科 目	専門科目 (基盤)	子ども育成入門	1	2		前	竹田・松山 大藪・義基	○	○						16単位	
		子ども育成論	2	2		後	辻・竹田・金	○	○							
		子ども育成専門演習	3	2		後	石倉・萩中・金	○	○							
		教育原理	1	2		後	辻和希	◎	◎	◎		○	◎			
		教育心理学	2	2		前	大平泰子	◎	◎							
		教育課程論	3	2		後	三原茂	◎	◎							
		教育方法論	3	2		後	三原茂	◎	◎							
		児童・家庭福祉論	1	2		前	金仙玉			◎	◎	○	◎			
		保育原理	1	2		前	竹田好美		○	◎		○				
	子ども育成 の理論	保育者論	3	2		後	本江理子			◎						
		教職論	1	2		後	萩中泰弘	◎	◎							
		子ども家庭支援論	3	2		後	金仙玉			◎						
		社会的養護Ⅰ	2	2		前	金仙玉			◎						
		ソーシャルワークの基盤と専門職	4	2		前	義基祐正				◎	○				
		ソーシャルワークの基盤と専門職(専門)	4	2		後	義基祐正				◎	○				
		家庭教育論	2	2		前	辻・大平		○	○						
		福祉教育論	2	2		後	村上・辻	○	○	○						
		教育社会学	3	2		後		◎	◎	○						

※編入学生は該当する入学年度の教育課程表を参照すること。
同表に定めるほか、第19条の2および第24条の2で規定する連携開設科目の履修及び修得単位等の詳細は別に定める。

Ⅲ. 子ども育成学部

区分	授 業 科 目	配 当 年次	単位数		開講 時期	教員 (非常勤)	免許・資格に必要な科目						地域志 向科目	備 考 (卒業に必要な単位数 は124単位以上)	
			卒業要件 単位				小免	幼免	保育士	社会 福祉士	社会福 祉主事	スクール ソーシャル ワーカー			
			必修	選択											
	教育とICT	2		2	前	松山・(成瀬)	◎	○							
	保育の計画と評価	3		2	後	竹田好美			◎						
	保育内容総論	1		2	後	石倉卓子		◎	◎						
	保育内容(健康)	2		2	前	金子・(福島)		◎	◎						
	保育内容(人間関係)	2		2	後	本江理子		◎	◎						
	保育内容(環境)	2		2	前	石倉卓子		◎	◎						
	保育内容(言葉)	2		2	前	本江理子		◎	◎						
	保育内容(音楽表現)	3		2	前	(大村禎子)		◎	◎						
	保育内容(造形表現)	3		2	後	佐部利典彦		◎	◎						
	子どもと健康	1		1	後	金子泰子		◎	◎						
	子どもと人間関係	2		1	前	本江理子		◎	◎						
	子どもと環境	1		1	後	松山・石倉		◎	◎						
	子どもと言葉	1		1	後	本江理子		◎	◎						
	子どもと表現	2		1	前	佐部利典彦			◎	◎					
	乳児保育Ⅰ	1		2	後	竹田好美			◎						
	乳児保育Ⅱ	2		1	前	竹田好美			◎						
	子どもの安全と健康	2		1	前	(境美砂子)			◎						
	障害児保育	3		2	前	河崎美香		○	◎						
	社会的養護Ⅱ	2		1	後	(寺岡栄一)			◎						
	国語科教育法	3		2	前	岩崎直哉	◎								
	社会科教育法	3		2	前	大藪・三原	◎								
	算数科教育法	3		2	前	萩中泰弘	◎								
	理科教育法	3		2	前	松山友之	◎								
	生活科教育法	3		2	前	三原茂	◎								
	音楽科教育法	2		2	後	湯澤卓	◎								
	図画工作科教育法	2		2	後	佐部利典彦	◎								
	家庭科教育法	3		2	前	(磯崎尚子)	◎								
	体育科教育法	3		2	前	金子泰子	◎								
	外国語科教育法	3		2	前	吉崎理香	◎								
	道徳教育指導論	3		2	前	辻和希	◎								
	総合的な学習の時間の指導法	3		2	前	大藪・三原	◎								
	特別活動論	3		1	前	岩崎直哉	◎								
	国語	2		2	後	岩崎直哉	◎								
	社会	2		2	後	大藪敏宏	◎								
	算数	2		2	後	萩中泰弘	◎								
	理科	2		2	後	松山友之	◎								
	生活	2		2	前	石倉・三原	◎								
	音楽Ⅰ	1		2	後	湯澤卓 (佐々木・大村)	◎			○					
	音楽Ⅱ	2		2	前	湯澤卓 (佐々木・大村)	○			○					
	図画工作	1		2	前	佐部利典彦	◎			○					
	家庭	2		2	後	(吉田友子)	◎								
	体育	2		2	後	金子泰子	◎			○					
	英語	2		2	後	吉崎理香	◎								
子 ど も 育 成 の 実 習	保育所実習指導Ⅰ	2		1	通年	竹田・本江				◎					
	保育所実習指導Ⅱ	4		1	通年	本江・竹田				○					
	保育所実習Ⅰ	2		2	前	竹田・本江				◎				◆	
	保育所実習Ⅱ	4		2	前	本江・竹田				○				◆	
	施設実習指導Ⅰ	2		1	通年	金・義基				◎					
	施設実習指導Ⅱ	4		1	通年	相山・義基				○					
	施設実習Ⅰ	2		2	後	金・義基				◎				◆	
	施設実習Ⅱ	4		2	前	相山・義基				○				◆	
	幼稚園教育実習指導	3		1	前	石倉・河崎			○						
	幼稚園教育実習	3		4	前	石倉・河崎			○					◆	
	教育実習指導	3		1	前	岩崎・萩中 三原・金子	◎		○						
	教育実習	3		4	前	岩崎・萩中 三原・金子	◎		○					◆	
														6-2 「教職課程 の履修計画 と登録」参照	

Ⅲ. 子ども育成学部

区分		授 業 科 目	配 当 年次	単位数		開講 時期	教員 (非常勤)	免許・資格に必要な科目						地域志 向科目	備 考 (卒業に必要な単位数 は124単位以上)	
				卒業要件 単位	自由 単位			小免	幼免	保育士	社会 福祉士	社会福 祉主事	スクール ソーシャル ワーカー			
																必修
授 業 科 目 の 概 要	子 ど も の 発 達 と 環 境	発達心理学	1	2		後	大平泰子	◎	◎	◎						
		子ども家庭支援の心理学	2		2		後	大平・(根塚)			◎					
		幼児理解	2		2		後	河崎美香		◎	◎					
		子どもの保健	1		2		後	(松居紀久子)			◎					
		子どもの食と栄養	2		2		前	(大掛恵美子)			◎					
		特別支援教育論	4	1			前	河崎美香	◎	◎						
		特別な教育的ニーズの理解 とその支援	4		1		前	河崎美香	○							
		医学一般	1		2		後	(境・一ノ山)				◎	○			
		精神保健	3		2		前	村上・(一ノ山)						◎		
		子ども文化	1		2		後	石倉・(門脇)			○					
	子 ど も 育 成 の 相 談 ・ 援 助	子育て支援	4	1			前	金・(明栄)			◎					
		生徒指導・進路指導論	3		2		後	松山友之	◎					◎		
		教育相談	4	2			後	(根塚)・大平	◎	◎						
		ソーシャルワークの理論と方法	2		4		通年	村上満				◎	○			
		ソーシャルワークの理論と方法 (専門)	3		4		通年	村上満				◎	○			
		ソーシャルワーク演習	2		2		前	義基祐正				◎				
		ソーシャルワーク演習(専門Ⅰ)	2		2		後	相山馨				◎				
		ソーシャルワーク演習(専門Ⅱ)	3		4		通年	相山馨				◎				
		ソーシャルワーク演習(専門Ⅲ)	4		2		前	相山馨				◎				
		ソーシャルワーク実習指導Ⅰ	2		1		後	義基・村上・相山				◎				
		ソーシャルワーク実習指導Ⅱ	3		4		通年	村上・相山・義基				◎				
		ソーシャルワーク実習指導Ⅲ	4		1		前	相山・村上・義基				◎				
		ソーシャルワーク実習Ⅰ	2		2		通年	義基・村上・相山				◎		◆		
		ソーシャルワーク実習Ⅱ	3		6		通年	村上・相山・義基				◎		◆		
		スクールソーシャルワーク論	3			2	後	村上満						◎		
		スクールソーシャルワーク演習	4			1	前	村上満						◎		
		スクールソーシャルワーク実習指導	4			1	前	村上満						◎		
		スクールソーシャルワーク実習	4			2	通年	村上満						◎		
	子 ど も と 家 庭 ・ 地 域 の 自 立 支 援	社会福祉概論	3		4		通年	金・村上・義基			◎	◎	○			
		地域福祉と包括的支援体制	2		4		通年	相山馨				◎	○			
		福祉サービスの組織と経営	4			2	前	(岡本達也)				◎				
		社会保障	4			4	通年	(柴田稔)				◎	○			
		社会福祉調査の基礎	3			2	後	(志賀文哉)				◎				
		貧困に対する支援	3			2	後	(袴谷敏実)				◎	○			
		保健医療と福祉	4			2	前	(萩原美紀子)				◎	○			
		権利擁護を支える法制度	4			2	前	(柴田稔)				◎				
		刑事司法と福祉	4			2	前					◎				
		障害者福祉	2		2		後	義基祐正				◎	○			
		高齢者福祉	2			2	前	相山馨				◎	○			
		富 山 の 子 ど も 育 成	自然体験活動	1		2		通年	松山友之	○	○					◆
			子ども活動実践演習	2		2		前	佐部利典彦	○	○	○				◆
	教職実践演習(幼・小)		4		2		後	竹田・三原	◎	◎						
	保育実践演習		4		2		前	石倉・本江・竹田			◎					
	富山に学ぶインターンシップ		3		2		通年		○	○					◆	
	育 子 の 研 究	卒業研究Ⅰa	3	2			前	専任全員							◆	
		卒業研究Ⅰb	3	2			後	専任全員							◆	
		卒業研究Ⅱ	4	4			通年	専任全員							◆	

◎:資格取得のための必修科目

○:資格取得のための選択必修及び選択科目

教養科目(基盤)は免許・資格申請等の際に教養科目として扱う

専門科目(基盤)は免許・資格申請等の際に専門科目として扱う

(詳しくは、各資格の履修規程を参照のこと)

6 免許・資格等履修

6-1. 子ども育成学部で取得できる免許・資格等の種類と授与条件

●免許状および免許教科・資格等の種類

本学で取得できる教育職員免許状・資格等は、次のとおりです。

学部・学科	取得できる免許状の種類	取得できる資格等の種類
子ども育成学部 子ども育成学科	幼稚園教諭一種免許状 小学校教諭一種免許状	保育士資格 社会福祉士国家試験受験資格 スクールソーシャルワーク教育課程修了証 社会福祉主事任用資格

●免許状授与条件

小学校教諭一種免許状、幼稚園教諭一種免許状の取得希望者は、以下の教育職員免許法に基づく本学における免許状授与条件および **6-2 教職課程の履修計画と登録**に関する条件を満たすことが必要です。

免許状の種類	基礎資格	本学での最低修得単位数			
		領域および保育 内容の指導法に 関する科目	教科および教 科の指導法に 関する科目	教育の基礎的理 解に関する科目	大学が独自 に設定する 科目
幼稚園教諭 一種免許状	学士の学位を 有すること	19	—	26	14
小学校教諭 一種免許状	学士の学位を 有すること	—	40	33	2

他に、以下の「科目の単位取得」なども必要です。

日本国憲法など(教育職員免許法施行規則第 66 条の 6 に定める科目)

日本国憲法	日本国憲法(2 単位)を履修すること。
保健体育科目	体育講義(1 単位)と体育実技(1 単位)を履修すること。
外国語コミュニケーション	英語 I (2 単位)または英語 II (2 単位)を履修すること。
情報機器の操作	情報処理演習(2 単位)またはプレゼンテーション(2 単位)を履修すること。

●資格等取得条件

それぞれの資格等については、以下の項目を参照し、条件を満たすことが必要です。

- 【保育士資格】 : 6-3 保育士養成課程の履修計画と登録
- 【社会福祉士受験資格】 : 6-4 社会福祉士受験資格取得の履修計画と登録
- 【スクール（学校）ソーシャルワーク教育課程修了証】 : 6-5 スクールソーシャルワーク教育課程の履修計画と登録
- 【社会福祉主事任用資格】 : 6-6 社会福祉主事任用資格の取得について

6-2. 教職課程の履修計画と登録

幼 小

●教職課程の履修計画

本学部では、原則として教職課程の履修を推奨しています。教職課程を履修しようとする学生は、1年次から教職関連科目の履修登録を計画的に進め、教育実習（必修）を受けるために必要な専門科目を履修するよう留意してください。

＜富山国際大学教職課程の履修に関する規程 参照＞

●教職課程履修カルテ

幼小の教職課程を履修する者は、「教職実践演習」（4年次開講）で使用する教職課程履修カルテを1年次より作成してください。教職課程履修カルテは、質の高い教員養成のため学生自身が学習内容や理解度等を入学段階から把握し、ゼミ担当教員に助言をもらいながら力をつけられるようにしていきます。

●免許状取得に関する実習申し込み

①幼稚園教諭一種免許状

3年次に3週間の教育実習が必要です。教員が実習先に直接依頼しますので、2年次のガイダンスに必ず出席して、履修希望園・市町村などを届出書に記入し、指定された日時までに担当者に提出してください。

②小学校教諭一種免許状

【介護等体験】

2、3年次（編入生は4年次）に、特別支援学校と社会福祉施設等で併せて7日間の「介護等体験」が義務づけられています。この場合、体験前に、本学で行われる事前指導を受けなければなりません。体験前の前年後期に行われる介護等体験に関するガイダンスに必ず出席してください。体験する学年の4月上旬には、申し込みの有無を記入し、指定された日時までに呉羽事務室に提出してください。体験先・体験期間の決定については別途説明会を開きます。

【教育実習】

3年次に3週間予定されている教育実習に行きます。これについては、各自が小学校に直接依頼する必要がありますので、2年次前期のガイダンスに必ず出席してください。3年次学外実習履修申し込み確認書に実習申し込みの有無を記入し、指定された日時・場所に提出してください。

●教育実習のねらい

- ・小学校・幼稚園・幼保連携型認定こども園の目的や機能および社会的役割について、実地の体験を通して理解する。
- ・児童・幼児の発達の理解を深めるとともに、必要な小学校・幼児教育の基本的内容について実践的に理解する。
- ・小学校・幼稚園・保育教諭の基本的な職務内容や役割について現場教員からの指導を受けるとともに、観察や助手的な経験および担任・指導実習を通して基本的な指導や援助のあり方を身につける。

●教職課程の実習時期と登録

学年	取得免許の種類	
	幼稚園教諭一種免許状	小学校教諭一種免許状
1年次		
2年次		介護等体験7日間（編入生は4年次）
3年次	幼稚園教育実習（9月頃、3週間15日間） 「幼稚園教育実習指導」受講	教育実習（9月、3週間（15日間）） 「教育実習指導」受講
4年次	教育職員免許状交付（学位記授与式）	教育職員免許状交付（学位記授与式）

※公立学校の正規採用教員になるためには、免許状取得だけでなく、各都道府県・指定都市教育委員会が実施する公立学校教員採用選考試験（小学校）、職員採用中級試験等（幼稚園・幼保連携型認定こども園）に合格することが必要です。

※免許状交付の際は別途料金が必要なため、本学部で実施する説明会等で確認してください。

6-3. 保育士養成課程の履修計画と登録

●保育士養成課程の履修計画

保育士養成課程を履修しようとする者は、1年次から保育士資格関連科目を計画的に進め、保育実習（必修）、施設実習（必修）を受けるために必要な科目を履修するように留意してください。

＜富山国際大学保育士養成課程の履修に関する規程 参照＞

●保育士資格取得に関する実習申し込み

保育士資格の取得希望者は、1年次後期に行われる、保育士資格に関するガイダンスに必ず出席してください。保育士資格にかかわる2年次実習の履修希望届け出用紙に実習履修希望の有無を記入し、指定された日時までに呉羽事務室に提出してください。

●保育所実習および施設実習

(1) 保育所実習および施設実習のねらい

- ・ 講義や演習で学んだ知識に基づいて、乳幼児や施設入所児（利用者）との人間的な関わり合いを深め、保育に関する理解力、判断力を養う。
- ・ 乳幼児や施設入所児（利用者）の自立を支える保育能力を高めると同時に、保育をとりまく環境についての知識と構成能力を養う。
- ・ 保育の計画や自立支援計画のたて方、記録の仕方等について学び、チームの一員として保育を遂行する能力を養う。
- ・ 施設の運営や地域との連携、並びに子育て支援の取り組みにも参加し、乳幼児と保護者や施設入所児（利用者）の援助全般における、保育士の職務の理解を深める。

(2) 保育所実習および施設実習の実習期間・実習先の決定

- ・ 2年次の9月に10日間予定されている保育所実習Ⅰ（必修）に行きます。次に、11月に10日間予定されている施設実習Ⅰ（必修）に行きます。配属先は、学生の居住地等の事情を勘案して決定されます。
- ・ 4年次の6月に10日間予定されている保育所実習Ⅱか施設実習Ⅱ（選択必修）に行きます。保育所実習Ⅱか施設実習Ⅱの選択は、3年次後期に行われるガイダンスで詳しく説明します。実習期間および実習先の最終決定は4年次前期の予定です。

●保育士養成課程の実習時期と登録

学年	実 習 の 種 類	
	保育所実習	施設実習
2年次	保育所実習Ⅰ（9月、10日間） 「保育所実習指導Ⅰ」受講	施設実習Ⅰ（11月、10日間） 「施設実習指導Ⅰ」受講
4年次	保育所実習Ⅱ（6月、10日間） 「保育所実習指導Ⅱ」受講	施設実習Ⅱ（6月、10日間） 「施設実習指導Ⅱ」受講
	保育士資格登録（3月末）自宅に保育士証が届くのは4～5月頃	

※ 「保育士資格証明書」だけでは「保育士」として業務に就くことができません。都道府県の備える保育士登録簿に氏名、生年月日その他厚生労働省令で定める事項を登録しなければなりませんので、4年次には、呉羽事務室に必要な書類を提出してください。

※ 保育士資格を登録する際は別途料金が必要ですので、本学部で実施する説明会等で確認してください。

6-4. 社会福祉士国家試験受験資格取得の履修計画と登録

社会福祉士になるためには、厚生労働大臣が指定した指定試験機関である(財)社会福祉振興・試験センターが実施する「社会福祉士国家試験」に合格しなくてはなりません。この国家試験を受験するためには、本学の社会福祉士（受験資格）指定科目を修め、卒業する必要があります。

●社会福祉士国家試験受験資格取得のための履修計画

社会福祉士受験資格の履修を希望する者は、1年次から社会福祉士（受験資格）関連科目の履修を計画的に進めソーシャルワーク実習（必修）を受けるために必要な科目を履修するよう留意してください。特に、実習・実習指導・演習については、以下「社会福祉士国家試験受験資格の実習時期」の時間数の基準を満たさなければなりません。

＜富山国際大学社会福祉士受験資格における科目履修に関する規程 参照＞

●社会福祉士受験資格の履修登録

社会福祉士受験資格取得希望者は、2年次後期のガイダンスにも必ず出席してください。3年次前期には、学外実習履修申し込み確認書に実習申し込みの有無を記入し、指定された日時までに、実習指導担当教員に提出してください。

●ソーシャルワーク実習のねらい

- ・ ソーシャルワーク実習を通して、相談援助に係る知識と技術について具体的かつ実践的に理解し実践的な技術等を体得する。
- ・ 社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得する。
- ・ 関連分野の専門職と連携のあり方およびその具体的内容を実践的に理解する。

●ソーシャルワーク実習の実習期間、実習先の決定

- ・ 2年次後期に予定されているソーシャルワーク実習Ⅰ（60時間）（必修）では、児童福祉をはじめ障害者福祉、高齢者福祉、地域福祉など幅広い分野の中から、実習生一人ひとりのこれまでの履修科目、適性や希望などに応じて決定します。
- ・ 3年次後期に予定されているソーシャルワーク実習Ⅱ（180時間）（必修）では、原則として、2年次に実習してこなかった未経験の分野を選択して、より幅広い学習ができるようにします。ただし、卒業後の進路希望が明確である場合は、2年次と同種または関連深い分野を選択できるようにします。

●社会福祉士国家試験受験資格の実習時期

学年	取得免許の種類	
	社会福祉士（国家試験受験資格）	
2年次	ソーシャルワーク実習Ⅰ（60時間）	2～4年次 ソーシャルワーク演習（150時間）受講
3年次	ソーシャルワーク実習Ⅱ（180時間）	2～4年次 ソーシャルワーク実習指導（90時間）受講

●社会福祉士国家試験受験時における提出書類 ＜厚生労働省 HP および事務室で必ず確認＞

- ・ 卒業見込証明書・社会福祉士指定科目履修見込証明書
- ・ 受験申込書
- ・ 写真

※ 卒業見込証明書・社会福祉士指定科目履修見込証明書を提出した者にあつては、卒業が決定した時点で、卒業証明書・社会福祉士指定科目履修証明書を、本学より関係機関へ送付します。

6-5. スクールソーシャルワーク教育課程の履修計画と登録



スクールソーシャルワーカーとして、一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟「スクールソーシャルワーク教育課程修了証」の交付を受けるためには、スクールソーシャルワーク教育課程（以下、「本課程」という。）を修了するとともに、社会福祉士国家試験に合格して、社会福祉士登録証を取得後、協会に関係書類を添えて申請する手続きが必要です。

●スクールソーシャルワーク教育課程修了証取得のための履修計画

本課程の履修を希望する者は、1年次から社会福祉士（受験資格）関連科目の履修を計画的に進め、スクールソーシャルワーク実習（必修）を受けるために必要な科目を履修するよう留意してください。特に、実習・実習指導・演習については、以下「スクールソーシャルワーク教育課程修了証の実習時期」の時間数の基準を満たさなければなりません。

＜富山国際大学スクールソーシャルワーク教育課程における科目履修に関する規程 参照＞

●スクールソーシャルワーク教育課程の履修登録

本課程履修希望者は、2年次後期のガイダンスに必ず出席してください。本学におけるスクールソーシャルワーク実習は、社会福祉士の受験資格の取得に加えて、小学校教諭一種免許状の取得を義務づけています。したがって、3年次の小学校教育実習とソーシャルワーク実習のどちらも履修しておかなくてはなりません。

●スクールソーシャルワーク実習のねらい

- ・スクールソーシャルワーク実習を通して、学校教育現場での相談援助に係る知識と技術について具体的かつ实际的に理解し、実践的な技術等を体得する。
- ・スクールソーシャルワーカーとして求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得する。
- ・教員をはじめ様々な学校関係機関との連携のあり方およびその具体的内容を、実践的に理解する。

●スクールソーシャルワーク実習の実習期間、実習先の決定、配属可能人数

- ・4年次に80時間予定されているスクールソーシャルワーク実習（必修）では、富山県または富山市の教育委員会が指定する学校または学校関係機関等において実習を行うこととし、実習生一人ひとりの1～4年次までの履修科目、適性や希望等を考慮の上、実習先を決定します。
- ・配属可能人数は、本学と教育委員会との協議により決定されるので、必ずしも希望者全員が履修できない場合があります。

●スクールソーシャルワーク教育課程修了証の実習時期

学年	資格取得の種類	
	一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟 「スクール（学校）ソーシャルワーク教育課程修了証」	
4年次	スクールソーシャルワーク実習 （5月～1月：80時間） 3月 社会福祉士国家試験合格	4年次 スクールソーシャルワーク実 習指導（15時間）受講
卒業後	4月 社会福祉士登録証取得後「修了証」交付	

●スクールソーシャルワーク教育課程修了証交付申請時における提出書類

社会福祉士登録証（写し）

6-6. 社会福祉主事任用資格の取得について

●社会福祉主事について

社会福祉主事とは、福祉事務所現業員として任用される者に要求される資格（任用資格）であり、社会福祉施設職員等の資格に準用されています。

●社会福祉主事の職務

社会福祉各法に定める援護または更生の措置に関する事務を行うために、福祉事務所には必置義務があります。（福祉事務所のない町村には任意設置）

社会福祉主事任用資格の必要な職種は以下のとおりです。

行政	児童相談所	児童福祉司（児童福祉事業従事2年以上等）
	福祉事務所	現業員、査察指導員、老人福祉指導主事、家庭児童福祉主事（児童福祉事業従事2年以上等）、家庭相談員（児童福祉事業従事2年以上等）、母子・父子自立支援員
	知的障害者更生相談所	知的障害者福祉司（知的障害者福祉事業従事2年以上等）
	身体障害者更生相談所	身体障害者福祉司（身体障害者福祉事業従事2年以上等）
社会福祉施設		施設長、生活相談員 等

※（ ）内は、社会福祉主事任用資格に加えて必要な要件

●社会福祉主事任用資格取得の履修計画

1年次から社会福祉主事（任用資格）関連科目の履修登録を行い、「5. 子ども育成学部教育課程表」を参考に、資格に必要な科目を履修してください。